



日本語ボランティア in TOKYO

日本語ボランティアは、当初、批判もされましたが、おかげさまで、皆さんに認めてもらえる活動になりました。外国人支援活動は、先輩、横浜は別格として、東京では60余年の活動歴を持つ東京YWCA「留学生の母親運動」など、留学生を支える活動から始まったと思われます。

【おもてなし】

1970年代末から'80年代初めにかけて、ポートピアと呼ばれたインドシナ難民の人たちや、中国から帰って来た残留孤児の人たちを支援する団体や教室が生まれた。

それとともに、街でも外国人をよく見かけるようになり、夫の仕事で外国に住んだ経験を持つ帰国主婦、留学した子どもを持つお母さんたちが、今度は私たちが「おもてなし」をする番だと、「言葉のために毎日の生活に不自由を感じている隣人」を支援しようと、ボランティア日本語教室活動を始めた。港区の場合、外国籍住民にも区の施設を利用してもらいたい施設側の協力もあって、婦人会館がボランティア日本語教室の拠点になった。

【バブルがはじけて】

'80年代後半、日本のバブル経済に仕事を求めて、多くの外国人が来日した。「上野公園でイラン人が大集会」、「雨後の筍のように日本語学校が林立」などの見出しが新聞を飾った。

ところが、'90年に入りバブルがはじけ、「日本語学校が授業料を持って夜逃げ」して、外国人たちは仕事も日本語を学ぶ場も失い、都内全域に仕事を

求めて広がった。そして、それらの外国人を支援しようと、各地にボランティア日本語教室ができるとともに、外国籍住民が急に増えた区や市は、住民サービスを多言語でするのも難しく、それらの外国人を支えてもらうため、日本語ボランティアを養成して、日本語教室を作った。

【TNVN誕生】

東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)が生まれたのは、ちょうどその頃、'93年末になる。それまでは、横のつながりがなかった都内各地で活動するボランティア日本語教室(62団体)は、東京ボランティアセンター主催「ボランティア・めっせ」をきっかけにネットワークを結成した。そして、外国人たちが通いやすい教室を探せるように「ガイド」を作る、情報交換の場を作る、自らの資質向上のため研修の場を作る、ということを目指して活動を始めた。

【学習者】

東京には世界各国の人が住んでいる。以前、各教室に参加している国別人数を調査したところ100以上の国名があげられた。日本滞在理由はさまざま

が、コロナ前には、ワーキングホリデーで来日したアニメが好きな若い人が多くいた。アニメで日本語を覚えたそうで、年配ボランティアはアニメについて逆に教えてもらうこともあった。また、日経の一面記事で、N4とかN3(日本語能力試験のレベル)を見た時は、とても驚いた。日本語ボランティアも就労のため日本へ来た外国人から、日本語能力試験対策を頼まれるのだろうか。

【日本語ボランティアはどこへ?】

就労外国人の問題がどうなるのかと思う間もなく、2020年2月、新型コロナウイルスが日本にもやって来た。ボランティア日本語教室で向かい合っておしゃべりする活動は、三密を禁止するコロナ禍の中では危険視される。それに加え、日本語教室の多くは'90年代前半に活動を始めているので、ボランティアたちが高齢になり、いくつかの教室がコロナを恐れて活動を止めざるをえなくなった。オンライン学習支援をがんばって行っている教室もあるが、日本語ボランティアたちの多くは、ふれあいのある対面活動に早く戻れるようにと祈っている。

(文責 林川玲子)

TAMA日本語ネットワーク 再発進

寄稿

福田 博之

TAMA日本語ネットワーク代表
tamanihongonetwork1@gmail.com



「コロナ渦でも対面式の活動を再開したい、どのような対策をして、いつから再開すれば良いのだろう」このような疑問をだれかに相談したいと思ったことはありませんか。日本語教育を取り巻く環境が大きく変わってきています。入管法改正、日本語教育の推進に関する法律の施行、それに加えて新型コロナ対応に伴う教室運営のありかたなど、それぞれの地域で、対応に苦心されていることと思います。他の団体ではどのように対応しているのか、気軽に尋ねることができると良いですね。

オンライン対応が進む一方で、いままで対面式の活動では自然に発生していた雑談などの機会が減少し、国際交流に関する組織のサードプレイスとしての存在感が低下しているということはありませんか。オンライン化が進んだ今だからこそ、人と人のゆるい繋がりや、気軽に参加できる情報交換の機会の必要性が高まったのではないのでしょうか。私が所属する団体でも日本語学習支援ボランティア同士が会話する機会がありますが、他の団体の方とも気軽に話ができる機会がもっとあれば、さらに活動の質を向上させることができると考えていました。

「TAMA日本語ネットワーク」は、ZOOMを使用した情報交換の機会を提供します。こちらは1990年からの歴史をもつ日本語学習支援についての情報交換会「TAMA日本語共育ネットワーク」を、もっと気軽に参加できる情報交換会として再発進した、ZOOMを使用したおしゃべりの会です。前身である会は、1990年の「三多摩国際交流ネットワーク」から派生して発

進。以来、主に日本語学習支援について、多摩拠点の国際交流協会等の日本語学習支援ボランティア団体から、参加希望者を募り、情報交換を定期的に行ってきました。2000年に名称を改め「TAMA日本語共育ネットワーク」として発足。15団体23名の会でした。近年では参加メンバーの高齢化や開催場所へのアクセスの問題等で、参加が困難となる方も多くなっていました。そこでこの度、名称を改め、ZOOMを使用して、もっと気軽に参加できる情報交換ネットワークとして参加者を新たに募りました。

昨年9月の再発進後第1回目の会では、主に多摩エリアの団体に案内を送り、13名（所属団体数10）の参加がありました。団体の立場として参加することが難しい場合もあると思います。個人の立場としての参加を歓迎します。この会は参加者同士の対等な関係を目指します。テーマや進行方法など参加者の自発的な提案を尊重して、参加者皆でつくりあげる会にしたいと思います。テーマは日本語学習支援に関することが主ですが、多文化共生推進等についても扱います。

今回は、2022年5月28日 土曜日 18:30-20:00の開催予定です。あまり会が大きくなりすぎないように、現在は広くメンバー募集はしておらず、ホームページなどありません。興味がある方は、私あてにメールをいただければと思います。年に2回程度の開催です。参加費無料。事例報告のために新たに資料を作成する必要はありません。できるだけ参加者の負担にならない情報交換会にしたいと思います。

(関連記事8ページ)

「生活の漢字」学習支援

『生活の漢字』をかんがえる会 新庄 あいみ

私は日本語教師仲間と大阪で2006年から「生活の漢字」を教える教室を開いています。このコラムでは「生活の漢字」とは何か、そして何を大切に学習支援を行っているのかについてお伝えします。

みなさんは「漢字」の学習を支援していますか。今まで各所で同じ質問をしてきましたが、「必要とは思っていない」「教え方が分からない」「学習者が漢字の学習を嫌がる」というご意見を多く頂きました。日本語の日常会話は敬語や文法上の細かい点を除けばある程度身に付きやすく、非母語話者は音声言語としての日本語は比較的多く認識しています。しかし、読み書きはどうでしょうか。日本語がペラペラ話せるという学習者も実は読めない書けないのだというケースは珍しくありません。日本語は他の言語とは違い、ひらがな、カタカナ、漢字という3つの文字を使うという特徴があります。かつ、漢字は数が多く、一つの漢字に複数の読み方があり、非漢字圏の出身者にとっては継続学習が必要となってきます。しかし、漢字は独学が難しく習得に時間がかかり挫折する人も多くいます。そこで、私たちは、生活者としての外国人が、日本での生活を楽にするために楽しく漢字を学べる教室を始めました。それが「生活の漢字」教室です。

「生活の漢字」とは、「毎日の生活の中で目にする漢字語（注：漢字語とは漢字を含む語彙）」、「日常生活において、その意味が分からないと生活に支障をきたす漢字語」、「読むことができても意味が分かったら、生活するうえで便利になる漢字語」のことで、さらに教室では「今日勉強したこと」が「今日、生活のなかで使える漢字教育を行うこと」を大切にしています。漢字は簡単なものから学習するのがよいという考えから、地域の日本語学習支援で小学一年生の漢字ドリルが使われることがあります。小学一年生の漢字を勉強していて「学校からのお便り」が読みたい保護者はいつお便りが読めるようになるでしょうか。読めるようになるころにはお子さんは卒業しているかもしれません。「学校のお便りが読みたい」という学習者がいたらお便りから読んでいく、

学習者が必要とする漢字から学んでいく方が生活に役立ちます。学習者が読みたい漢字から学んでいくと何が起るでしょうか。学習者が見えている世界が変わるという体験です。私たちの教室は大阪駅前にあります。授業では大阪駅で撮影してきた写真を使って「大阪駅」という漢字語を学びます。すると、それまで「OSAKA-EKI」を音では知っていたけれど、文字は「OSAKA STATION」しか認識していなかった学習者は、帰り道に「大阪駅」という漢字が目飛び込んで来るという経験をします。これまで単なる記号だった漢字を初めて意味を持つ文字として認識したうれしい瞬間です。

私たちはこれまで「学ぶ→覚える→使う」だった漢字学習を「見る→分かる→使う→覚える」になるように、そしてそれが繰り返されるように生活で目にする漢字を写真に撮り、それを教材にしています。最近はスマホという便利な道具がありますから、簡単に写真を撮って学習教材にすることができます。みなさんも学習者の生活に必要な漢字の写真を撮ったり、学習者に読みたい漢字を撮って来てもらったりして一緒に学習してください。たとえ10分程度の学習であっても必ず学習者の生活が変わってくることでしょう。それが「生活の漢字」の学習支援です。

*「生活の漢字」教室は文化庁地域日本語教育支援事業に採択され開催しています。

参考
図書

「新にほんごく生活の漢字」漢字みつけた
『生活の漢字』をかんがえる会 アルク



大阪駅



「生活の漢字」教室



金子の深い悩みの話

謙讓語をめぐって

日本語教師 金子広幸

私の著作の中に『新・にほんご敬語トレーニング』があります。この本は現在多くの人に使われていて、日本で育った人でもときどきこの本をご覧くださいのこと。

この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

最近はこの本の存在のせいで、敬語の使い方の質問をされるようになりました。私の日本語教師としての出発点は初級クラスなので「初級クラスの金子さん」と言われるほうが嬉しいんだけどなあ。…そんな贅言は言っただけです。

今日は私の深い悩みを皆さんにも考えていただこうと思いました。

皆さんは敬語の大系に「尊敬語」「謙讓語」があるのはご存じですね。

尊敬語は「相手のすることに使う。相手を高めて、直接的に敬意を表す」、謙讓語は「自分が目上に対してすることに使う。自分を低めて、間接的に敬意を表す」のですが、初学者である学習者の間違いにこんなものがあります。

「…きのう自宅にお帰りしてから、宿

題をお書きしながら、お考えしました」と敬語の対象とは関係ない部分にまで謙讓語を使ってしまう初歩的なミスです。

謙讓語は、尊敬語の概念と違って、自分の行為が目上の相手に関わらなければ使えません。先生の写真を「お撮りしました」とは言っても、いかにそれが先生のためでも、公園で鳥の写真を「お撮りしました」とは言えませんね。

「インタビューをする」の単位では、相手が言ったことを相槌でリピートする練習をします。例えば、「私はよく外国で買い物するんです」と目上が言ったら、「どちらで買い物なさるんですか」とか「どんなものをお買いになるんですか」などとその目上に対して尊敬語を使ってレスポンス（反応）する練習です。

私たち母語話者には簡単でも、この種の練習は学習者にとっては至難の業で、なかなか大変なことです。つい「どちらでお買い物イタスんですか」とか「どんなものをお買いスルんですか」と言ってしまう人もいます。

…この辺は読者の皆さんも笑ってお読みだと思えます。

では、以下の場合はどうでしょう。

お医者さんに「朝ごはんは何を召し上がりましたか」と聞かれたら「トーストをいただきました」と答えることに、それほど抵抗がない人もいらっしゃるのではありませんか。

この傾向は女性に多く、同僚の日本語教師でさえ「【食べました】と言うのは失礼な感じがする」と言っていました。最近の料理番組では「この方法なら鶏肉が美味しくいただけます」と言っていたりします。どうして「食べられます」を避ける必要があるのか私にはわかりません。

先に申し上げておきますが、このへんにはまだ答えがあるとは言えません。私たち母語話者の中でも揺れがあるからです。

また、こんな時はどうでしょう。「偶然駅の前でOさんに会ったんですよ」と言われたので、そのレスポンスとして、「Oさんにお会いになったんですか」となるところを「Oさんにお会いしたんですか」と言ってしまうことはありませんか。

さらに、目上に直接「どなたにお目にかかったんですか」と聞いてしまうこともあるのでは？「お会いする」も「お目にかかる」もどちらも謙讓語ですから、通常は眼前の目上に対する質問としては使えないはずです。

これらはまだ序の口で、他のものと結びついて、さらに複雑になるときもあります。

もう何年も前からの話題ですが、駅の放送で「ご乗車してください」は変だ、「ご乗車ください」が正しいという議論がありますね。前者は「ご乗車する」という謙譲語で、後者が「ご乗車になる」という尊敬語「ご乗車になってください」の短い形なので、後者の方が正しいと主張する理屈です。

ね？ けっこう迷うでしょう？ 学生の間違いを笑えません。

この辺の不思議な揺れは社会のあちこちにあって、私も思わず「どきっ」としてしまうことがあります。

- 銀行でATMの使い方がわからなかったとき、銀行の人がそばに来て「お客様のカードをこちらにお入れしてください」と言った。…「お入れください」でいいのに。
- 新幹線の車内放送「お使いしたリクライニングシートはお戻ししてください」「お使いのリクライニングシートはお戻してください」でいいのに。この「お使いの」は尊敬語の一種であることに気づいていない人が多い。
- 立て箆もり事件の報道で、記者が「猟銃をお持ちの容疑者は何日も前からライフルを準備されていたとのことです」と言っていた。もちろん「される」も尊敬語。
- 「使えない」の尊敬表現は「お使いになれません」か「お使いいただけません」が適当。謙譲語「お使いする（そもそもこの形はあまりありません）」「ご使用する（??）」という形から派生した「お使いできません」「ご使用できません」を見かけるし、耳にする。
- 私のクラスの成績優秀な学生が「職場の上司が『お』は敬語だから、自分の行動には【お】をつけ

ないでいい』と言っている」と驚いていた。「お手伝いします」はどうなるの??

- どこかの大学のお手洗いに「変質者が出没いたします」と書いてあった。
- NHKの番組制作の時にも「これから帰宅いたします」はOKかどうかで議論が出た。「帰宅します」では敬意が足りないのではないかと。
- 「だんだん寒くなってまいりました」。この「まいりました」は誰に対して使っている敬語なのでしょう。これはもともと謙譲語だった「まいります」が、文脈上存在するはずの尊敬の対象が脱落しても、聞いたり読んだりしている人に丁寧な気持ちを伝えるために、使われるようになったものです。これを鄭重語ていじゆうご※と呼びます。
- 謙譲語・鄭重語からは離れますが、この間NHKの「プラタモリ」で、タモリさんが正解を言った時、専門家の先生がタモリさんに対して「その通りです」と言うべきところを、「その通りになります！」と言っていました。本紙87号でも紹介しましたが、ファミレスの店員さんが「きつねうどんセットになります」と言って持ってきたので、私が「あとどのくらい待ったらきつねうどんセットになるんですか」と聞いたという、あの伝説的(?)な「ニナリマス」の使い方が、ついにここまで来たか！という感じでした。感慨深く(?)聞きました。

あ～あ、やっぱりウルサガタになってしまっている金子です。

改めて読者の皆さんに聞きたいと思います。〈日本語って何でしょう〉。アジアの東にある4つの島とその周辺で「今」使われているのが日本語ですよ？ では、半数以上の人が使っているけれども一応は「誤用だ」と言われるこれらの表現群を、私は2022年の教師としてどうあつかっ

たらいいのでしょうか。

言葉はイキモノだからいつでも速い速度で変化していく、それは確かなことだと思います。それを踏まえて、「保守的な敬語の世界だからこそ、新しい言い方よりは、伝統に根ざした言い方を優先すべきだ」という意見も頷けます。でも、そうやって生み出したものが、この島々に住んでいる人たちの現状と食い違っていたら、私はどちらを取るべきなのでしょう。

>「正しいからこちらを使いなさい」と強硬に突っぱねて学生を日本社会から孤立させるか、
>「現状把握しなさい」と言い続けて今は誤用とされていることを使わせるか。
本当に迷います。

現状をおそろおそろ見直し、これから現代の日本語社会に飛び立とうとしている学習者を支える立場にある私は、研究者である前に日本語教師なのです。

一体どうしたらいいのでしょうか。これが目下の私の最大の悩みです。まずはぼちぼち調査でもしてみましようか。読者の皆さん！ どうぞお力添えを。

※(丁重は本来の漢字の意味から離れた代用字です)



はじめまして！
運営委員です

Nice to Meet You

7,8年前に運営委員になりました。2018年1月28日には、「TNVN創立25年を迎える新春の集い」開催に協力し、私の趣味の狂言の先生のご指導で、外国人、日本人一緒に謡いを練習しました。(TNVNネットワークニュース№101参照)
現在の足立区の状況は次のとおりです。ボランティア日本語教室は15教室あります。

nice to meet you

山形 美保子 LTC友の会副代表 (杉並区)

日本語教育の仕事をしていた私が地元でボランティアができれば、と1994年に仲間とこのグループを立ち上げ、30年近く経とうとしています。あっという間でした。政治的民族的対立のある地域から来た学習者に日本人の立ち位置を問われた時の戸惑い、3.11震災直後の教室に来た学習者と揺れの怖さや徒歩帰宅の苦労話、そして2020年からのコロナ時代。いろんな危機があって、これからもあるでしょうが、どんな状況になっても教室を開けてい

nice to meet you

坂本 弘一 かけはし (足立区)

2022/1/21現在;活動中 5教室。
お休み中 10教室。(区ホームページ参照)
対面授業がほとんどで、オンラインは教室対応ではなく個人対応で実施しています。

2020年のコロナの影響で区の施設が使用できなかった期間は、3月から5月までの3か月間でした。各教室は、それぞれの判断でお休みにしました。いまだに開いたらよいか閉じたらよいか対応に苦慮している教室がたくさんあります。ボランティアの退会者も随分出ています。

年に3回、区役所会議室で開いてい



2022/1/31 クラスの様子

る教室代表者会議の出席者も少なくなり、また、中止となったりで、なかなか情報交換もできない状態です。

かけはしはコロナ前の30~40人の集まりがコロナ下では10~20人と半以下になりました。休んだのは施設利用ができなかった3か月のみ。要望がある限り開いていこうと思っています。これからも情報交換を!

れば誰かが来る、そんな教室を目指しています。

現在、対面式教室は、火曜・木曜の午前午後、阿佐ヶ谷で、土曜日午前に西永福で実施していますが、コロナ状況を見ながら、教室を開けたり閉めたりしています。2020年4月から始めたオンライン支援は継続中です。

火曜・木曜の教室として杉並区交流協会のフロアをお借りしている関係で、協会のイベントにも学習者が多く参加



し楽しんでます。この写真は杉並消防署による外国人生活者対象の消防講座参加者です。

コロナ対策をできる限り行い、35名のボランティアスタッフと50名の学習者にとって居心地のいい場所でありたい、そんな思いで活動しています。

nice to meet you

小林 薫 日本語サークル「わかば」(世田谷区)

当サークルは、地域に暮らす日本人・外国人住民の交流と日本語習得支援を目的として2013年7月に千歳烏山で活動を開始しました。およそ8年半が経過したところです。

コロナ発生後は一時、活動を休止していましたが、2020年8月からオンラインでの活動を始めました。これまで行ってきた対面交流に近づけるため、ZOOMの「ブレイクアウトルーム」という機能を活用しています。まず全員がメインルームに入室して会話したのち、ブレイクアウトルーム(小部屋)に分かれ、学習者と日本人会員がペア

または少人数グループで会話したり、学習したりします。終了間際に再度全員がメインルームに入室してお開きとなります。

始めのころは学習者も会員もオンラインに慣れず、満足のいく交流や学習ができませんでした。しかし、回数を重ねることに慣れ、今では教材をリアルタイムで画面に表示しながら会話するなど、工夫した取り組みができるようになりました。

コロナの状況が落ち着いた現在は、オンラインに加え、対面での活動も再開しています。日頃、オンライン組と

対面参加 オンライン参加



双方をつないで交流会を開催

対面組で別々に活動しているため、昨年末には双方をつないで交流会を開きました(写真)。各国のお正月の過ごし方や思い出などをテーマに楽しく話すことができました。

再び学習者と会員全員が一堂に会して自由に交流できる日が来ることを願いながら、今できる活動を続けていきたいと思っています。

nice to meet you

渡辺 紀子

まちだ地域国際交流協会 (MIFA) (町田市)

MIFAは1993年に設立され、今年で29年目を迎えます。現在会員は107名(休止者32名)です。学習者はコロナ禍で減少しており、58名が学習中(含リモート学習者8名)で、待機中が12名です。教室は月火木土の午前中、木曜は夜も、加えて月曜には親子教室も開いています。学習形態は1対1です。

コロナ感染の拡大、減少に伴い教室の休止、再開を繰り返しています。(2020年2月~2020年10月休止、11月12月再開、その後緊急事態宣言を受けて再度の休止、2021年11月教室再開、

2022年1月オミクロン株の急激な感染拡大により、再々度の休止になっています)

その他の活動としては「日本語スピーチ大会」、「日本語学習支援ボランティア養成講座」を開催しています。また、毎年恒例の「新春の集い」のほか、「日帰りの小旅行」など学習者と支援者の親睦のイベントを開いていますが、コロナ禍でここ2年間中断しています。

私自身もアメリカ、シンガポール、オーストラリアで14年近く生活しました。最初はニューヨークで、50年ほど



教室風景

前のことです。今と違って情報も少なく戸惑うことが多かったのですが、ボランティアの方々から英語のみならず日常生活の仕方などを教えて頂き大変助かりました。海外での生活は言葉に加え、生活習慣など文化の違いから気苦労が多いものです。その際のお返しのお気持ちもあり、来日した外国人の手助けができればと20年ほど前にMIFAの活動に参加しました。

nice to meet you

坂本 英樹

NPO法人「IWC国際市民の会」(品川区)

現在、私は、NPO法人「IWC国際市民の会」と、日本貿易会が創設したNPO法人「国際社会貢献センター」に所属しています。私は、総合商社に勤務、主に海外との取引に従事していました。総合商社時代にロンドンに5年間駐在したときは、慣れない生活の場で、家内や小さかった娘がまわりの英国人からサポートしてもらっていました。今度は逆に、私が日本に生活する外国の方たちの支援など、外国の方々

とのつながりのある活動はないかと思っていたところ、在住外国人向けの日本語ボランティアという場があることを知りました。

養成講座を受講後、4年前より日本語ボランティアなどの活動を行っています。日本に在住する外国人への支援活動を行っていく上で、我々ボランティアは外国人が望む、あるいは、あるべき支援の姿など根本的な問題は共有していくことが大切と考えています。実



際の支援段階では個々のボランティア団体

がその地域に適するやり方を実行していくことになるとおもいますが、これらボランティアを囲む諸問題を共有する場としてTNVNが役割を果たしていると考えられています。今後ともよろしく願い申し上げます。

nice to meet you

中山 眞理子

NPO法人 多文化子ども自立支援センター代表 (中野区)

日本に職を求め来る人々が帯同する子ども達に対し学習指導や支援を行い、自立を促すことが、設立丸十年となる当支援センターの役割である。従って、支援内容は日本語学習、教科学習(英・数・理・社)、日本語能力検定等の資格獲得、介護職等の資格取得支援など多岐にわたる。通常高校入学を終点にする中、出発点と捉え、それから「勝負どころ」である。

子ども達の心の成長に従って、将来

の自立した生活の基盤となるビザ獲得が必要で、それには何が必要かを説き、近い目標を設定させ、確実に進ませるのは至難の業だが、最近は日常的な説得が功を奏し、N1:1、N2:5、N3:1の全員合格を得た。

現在、高校入学後も、勉強を継続する層が増加し、または一定の期間を経て、また戻って来て、真剣に学習し、目標を達成していく姿は感動的で、私たちスタッフの喜びである。学習障害・

不登校などの子ども達

には学校との連携で、進級・進学に結び付け、難民認定申請家庭には教材費を含め家族全員に無償で支援を行い、大学、専門学校入学には必要に応じ年間30万円の貸与型奨学金を支給している。

個々の被支援者の目的・条件に合った支援を今後も積極的に進めていきたい。



●第29回定期総会のご案内

日時：2022年4月24日（日）賛否表明18:00まで
 新型コロナウイルスの収束が望めないため、インターネットを利用して議案に対する賛否表明をお願いします。詳細は総会資料（同封）をご覧ください。
 メールアドレスを変更、また新設した会員は、office@tnvn.jpにお知らせください。よろしくお願いたします。

●プロジェクト

1. データベース…継続中
2. 講座企画…以下の講座を実施しました。
【オンライン日本語学習支援のためのZoom使い方講座 初級編】
 2021年12月7日（火）19:00～21:00
 講師 福井一恵さん（アナウンスハウス松山合同会社）
 受講者 22名
3. ホームページの活用…「お知らせ」にTNVNから、また、東京都つながり創生財団、文化庁、その他からの情報を掲載します。
 ◎ホームページリニューアル検討会を、継続して実施します。

〈TAMA日本語共育ネットワークの歴史から〉

TAMA日本語共育ネットワークは2000年に創立された。
 7年間例会会場は武蔵野市国際交流協会で、この間に故杉沢氏、宮崎氏が数回の講習会・イベントを開催された。東村山市の川村氏等のリーダーが市と密接な関係を保ち、我々は敬服した。
 例会会場が2009年に国立市公民館に変わったが、公民館主催の講習会に我々も参加したことがある。
 東京都主催の国際交流団体情報交換会では、第10ブロックの清瀬国際交流会が例会の当番の日に我々の参加を認め、夜にはネットワークの記念すべき第百回例会に希望者全員の参加を認めた。（まちだ地域国際交流協会 床呂）

column

「言葉の持つ力」

日本人は「ありがとう」をよく言うというモンゴル人が指摘した記事を読んだことがあります。モンゴルでは店員が客に対してお礼として「ありがとう」と言うが、基本的には本当に価値ある行為をしてもらった時に使い、親しい相手に「ありがとう」と言えば、他人行儀のように感じるそうです。

若い中国人も「私も友人や家族には『ありがとう』は言いません。でも、日本語で話す時は自然に『ありがとう』が出ますよ。日本語で話す時と中国語で話す時のモードが違ふんです。」と言っていました。つまり、日本語で話す時は日本人のような考え方になるということでした。それなら、日本語で話しているうちに、

中国人としてのアイデンティティが揺らぐことはないのかと尋ねると、「それはないです。何年、日本に住もうと中国人としての考え方は変わりません。」と、きっぱりと答えてくれました。

言葉は単なる伝達手段だと思っていたので、思考にまで影響を及ぼすとは新しい発見でした。もちろん、言葉に左右されない人もいられるでしょう。しかし、外国語を学ぶ前に、その国のことをより深く知る必要があるかもしれません。外国語が自由に操れるようになったら、その時、私の考え方は変わっているだろうか、今までとは違う自分になっているだろうか、と想像してみたくなりました。

(M・O)



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み
- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
- ◆TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
- ◆FAX：03-3235-0050
- ◆E-mail：office@tnvn.jp
- ◆URL：http://www.tnvn.jp/
- ◆郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名東京日本語ボランティア・ネットワーク
- ◆会員数（2022年3月25日現在）
正会員：86団体
個人協力会員：15名
賛助会員：5団体
- ◆編集／岡田 美奈子、小野 美恵子、神歩、床呂 英一、林川 玲子、山形 美保子、山内 真理、渡辺 紀子
- ◆レイアウト／美巧社